

令和 7 年(第 19 回)みどりの学術賞選考委員会
委員長コメント

令和 7 年(第 19 回)みどりの学術賞受賞者の選考にあたり、選考委員会は、みどりに関する学術研究に造詣の深い全国の学識経験者約 440 名の方々に対し、受賞に相応しい候補者の推薦を依頼いたしました。

その結果、候補者として、大変幅広い研究分野から 62 名の研究者を推薦していただきました。

選考委員会は、推薦のあった方々の業績を慎重に調査・審議し、景観生態学と植物分子遺伝学の分野で活躍されているお二人の方が、受賞に相応しいとの結論にいたりました。

受賞者のお一方は、公益財団法人京都市都市緑化協会理事長、京都大学名誉教授の森本幸裕博士です。都市の自然を再生し、人と生物に快適な環境を形成する観点から、京都において都市緑地の規模・分布と生物分布の関係を分析し、景観構造が生物種に与える影響を明らかにするとともに、都市型洪水の緩和と生物の生息環境の改善のため、降雨を地中に浸透させる「雨庭」の実現に尽力されました。さらに、日本景観生態学会長や国際的な会議の議長を務めるなど、造園技術の社会実装に加え、都市における景観生態学の発展に大きく貢献されました。

もうお一方は、東北大学大学院生命科学研究科教授の経塚淳子博士です。イネを用いて植物ホルモンのストリゴラクトンが植物の成長力と生産力を支える特性の一つである「分岐」に関わることを発見するとともに、根圏シグナル物質としての側面を持つことも明らかにし、植物の成長制御の起源や基本法則の解明につながる成果を上げられました。また、日本植物生理学会長として学会を先導するほか、植物科学関連の書籍の執筆や発生進化学に関する洋書の翻訳等に尽力するなど、植物科学の発展に大きく貢献されました。

受賞者のお二人は、いずれも学術的な観点から極めて優れた業績を修められただけでなく、人類とみどりとの関わりについて深く追求され、みどりを活かして暮らしていく未来を示されました。

選考委員会を代表し、両博士の永年にわたるご研鑽に対し、心から敬意を表するとともに、みどりに関する学術が新たな知をもたらし、社会を動かす源泉になることを期待いたします。

令和 7 年 3 月 7 日

みどりの学術賞選考委員会委員長
塚 谷 裕 一